

株式会社日立システムズ

第25回 設計・製造ソリューション展 小間番号 東2ホール 18-1

# いちばん大事なのは「価格」ではなく「やりたいことができること」です

## 株式会社三協製作所 山形工場 様の「FutureStage 自動車部品業向け生産・販売管理システム」導入事例

### 三協製作所様の事業内容



取締役 統括本部長  
増田 孝史 氏

株式会社三協製作所は、精密アルミ冷間鍛造部品を製造する国内トップメーカーであり、主な取引先は自動車業界と二輪業界、部品の生産個数（出荷個数）は、月間約400万個（年間約4,800万個）です。常に先進的な

技術の開発・導入を重ね、専業メーカーとして、いち早く時代を先取りした製品を提供し続けています。

### 生産管理における課題

自動車業界向け部品製造ならではの生産管理における難しさはありますか。

#### ■「『カンバン方式』、『ジャストインタイム』への対応」

自動車業界は一般にもよく知られているとおり、「必要な物を、必要なときに、必要な量だけ生産する」という方式を取っています。この場合、私たち部品製造会社には、「お客さまが必要とする部品を、お客さまが必要なときに、お客さまにとって必要な分だけ納品する」という体制が求められます。どんなタイミングでどんな注文が来ても、それに確実に対応できるよう、工場内には緻密な生産管理体制を敷く必要があります。

#### ■「多品種・少量生産への対応」

自動車は、1台につき2万点～3万点の部品で構成される「部品点数が多い機械」です。またメーカーごとに車種も豊富にあります。この場合、私たち部品製造会社は、何千種類もの多様な部品を少量ずつ生産・

納品できる「多品種・少量生産」の体制を確立する必要があります。多品種・少量生産を実現するには、高度な生産管理能力（工程調整力）が不可欠です。

#### ■「各製品の長期にわたる保管義務への対応」

自動車は、一台の車が中古車となって何十年と乗り継がれることも珍しくはなく、一般の家電製品などに比べ使用年数が長い機械であるといえます。そのため自動車は、修理部品の保管義務期間が20年～30年の長期に及びますが、このことは私たち部品会社もまた、部品の製造データを長期にわたって保管しなければならないことを意味しています。

上記のことから現行のシステムでは多品種・少量生産の冷間鍛造部品には合わず、エクセル主体の管理を行っていましたが、補完エクセルが大量発生してしまったため、どの数字を信じていかわからなくなってしまいました。



生産管理部  
今野 善則 氏

### 「FutureStage 自動車部品業向け生産・販売管理システム」の導入状況

FutureStage 自動車部品業向け生産・販売管理システムは、山形工場で作品を作るのに必要なモノ、カネ、ヒトの流れを効率的に管理し、上記の様々な課題を解決し、山形工場の「工場力」を底上げすることを目的に、2011年6月に導入しました。

今回のシステム導入で、特に重視したのは「生産管理の強化・効率化」です(図1)。

### 「FutureStage 自動車部品業向け生産・販売管理システム」と日立システムズに対する評価

これまで1年半、FutureStageを使い続けての評価を教えてください。

導入前に期待していたことは、ほぼ実現できました。補完エクセルも必要なくなり、皆がシステムの数字を信用するようになりました。

構築開始から今日までの間、日立システムズのシステムだけではない「人」の良さ、優秀さも実感しております。特に設計の方には、東京と山形の距離を感じさせない手厚いサポートを提供いただき、従業員一同、全面的に信頼しております。

現在、生産管理システムの刷新を検討している工場に向けて、「ある種の先輩ユーザー」としてのアドバイスなどあればお聞かせください。

今回のプロジェクトを通じて思ったのは、「日立グループ、やっぱり良いな」ということです。

選考の初期段階では、「会社の規模の大きい・小さいは関係ない。純粋に製品の機能で選ぼう」という考えで製品を比較しました。

しかし、実際にプロジェクトを進行させると、日立システムズは担当営業、担当設計、その上の管理職の皆さまなど、各人が有機的に機能しながら課題を解決していきます。これが「大企業の器」なのだなと実感しました。

現在、生産管理システムを検討している工場には、「自分たちの業務を精査・棚卸したいのなら日立システムズのヒアリングの洗礼を受けるといいかもしれません」ということです。

今回は事前の要件定義を精密に行いましたが、このときの日立システムズからのヒアリングはキツかったです。次々投げかけられる質問はどれも真っ

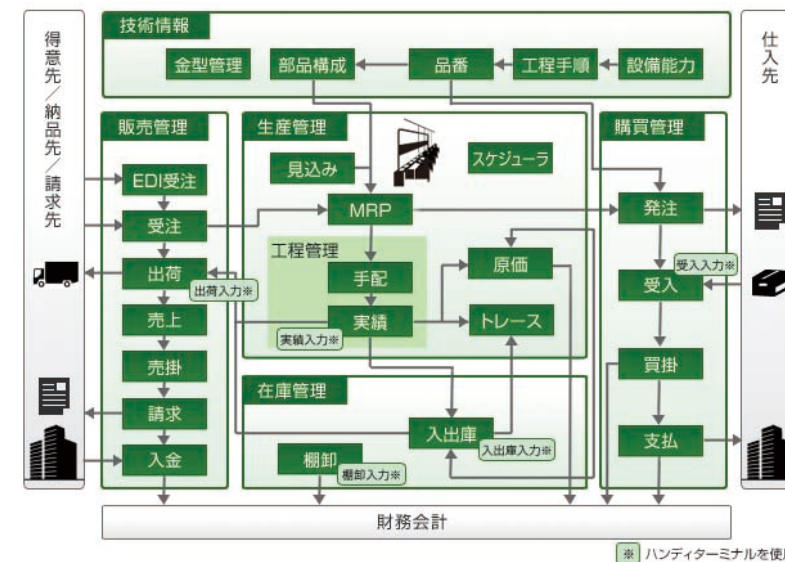


図1 「生産管理の強化・効率化」システムイメージ図

当な問いなのに、とっさには回答できず、言葉に詰まることが何度もありました。業務を改善するには、ここまで細かく考えないといけないのだと改めて思い知りました。

日立システムズの要件定義には、従業員の業務への取り組みや考え方を精密にする力があります。

今後の期待をお聞かせください。

日立システムズの尽力により、三協製作所 山形工場の生産管理体制は大幅に改善されました。今後も三協製作所は、お客さまの要望にとことんまで応え抜くための「工場力」を継続的に強化していきます。日立システムズには、引き続き、高いコンサルティング力、技術力、提案力を通じて、私たちの業務改善の取り組みをご支援いただくことを希望します。これからもよろしくお願いいたします。



50g以下の部品群



1,000g超の部品群

日立システムズ 商品お問い合わせ  
(フリーダイヤル) 0120-346-401  
受付時間 9:00～17:00 (土・日・祝日は除く)  
<http://www.hitachi-systems.com/ind/fs/>